

フリーアドレスデスク導入にかかる取組 事例紹介資料

福岡県 古賀市

令和元年8月



古賀市水の特命大使に就任した小野生奈さん (H31.4.5)

平成 30 年に賞金女王ならびに年間優秀女子選手を獲得

【古賀市の概要】

古賀市は平成9年に単独市制施行した行政面積 42km²で人口約6万人のまちです。平成30年度の一般会計の決算状況は、財政力指数0.70、経常収支比率94.3%、実質公債費比率5.1%でありました。平成31年度の一般会計の予算規模は213億円となっております。今年の10月には、古賀ゴルフ・クラブにおいて日本オープンの開催が予定されています。

【上水道・下水道の組織統合と施設の概要】

古賀市の水道事業および下水道事業は、いずれも単独で事業運営を行っています。今年の4月から下水道事業が企業会計に移行するタイミングにあわせ、水道課と下水道課の組織統合を行いました。統合後の執務室内の職員数は1課5係で29名体制です。本日ご覧いただきます上下水道庁舎は昨年まで水道課だけの庁舎でした。

庁舎の建築年度は昭和60年、延床面積約200m²です。

(改修前)

⇒

(改修後)



足場板(廃材)を使ったアプローチと
学生さんがデザインした玄関口

【フリーアドレスデスク導入の経緯】

組織統合のメリットとしてお客さま窓口を一元化できるものの、来客用窓口が手狭なうえ、職員数が倍増することでスペースの有効活用を図る必要がありました。また、統合後の縦割り行政を回避するために、コミュニケーションの活性化を促し、各係間の情報共有を促進するためにフリーアドレスデスクの導入を含むリノベーションに着手いたしました。

(改修前)

⇒

(改修後)



旧水道課窓口



上下水道課お客さまカウンター



旧水道課執務室



上下水道課執務室

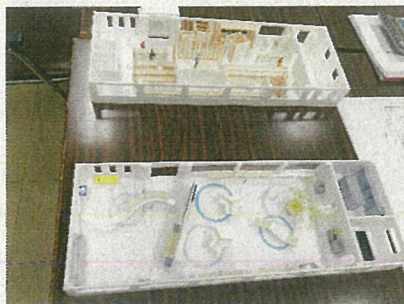
【九州産業大学との官学連携】

リノベーションにあたっては、古賀市と官学連携協定を結んでいる九州産業大学・建築都市工学部の住居・インテリア学科の福山秀親教授と学生20名に、フリーアドレスデスクを含めた執務室の改装設計を依頼しました（委託料は90万円）。学生さん達から、模型を使ったプレゼンを受けながら、デザインやレイアウトをはじめ上下水道課のロゴマークの提案もいただきました。

福山教授の設計コンセプトにかかるコメントとして、「上水道・下水道のインフラ整備がほぼ完了し民間の参入も始まる中で、市役所として次に何をすれば良いのか？自分は何のために働いているのか？をひとり一人が考えていってほしい。その上で、サッカーのように、チームとして明確なゴールに向かってフォーメーション（台形の机）を変えながら、課長や係長自身が執務室内を動いて指示を出していくことが必要と感じています。

配置の机35台とソファー3台には、ひとつとして同じデザインのものではなく、職員の方々が気持ちよく働き自己実現できるオフィス環境を創り上げました。」

（学生さんとプレゼン時の模型）



【学生さんとのエピソード】

旧水道庁舎に初めて学生さん達が訪れた時のコメントで、「このトイレは使いたくない」に加え、「こんな職場環境の会社に就職したくない」という率直な意見をいただきました。これでは、市民の皆さんからも良い印象は持たれてないだろうし、職員採用においても魅力の向上が必要と痛感することになりました。

【PRポイント】

- テーブル席、一人席、ソファ席、カウンター席、ペア席の5種類
- 翌日の座席は、原則として帰庁する際のくじ引きで決まります
- 1課5係のうち、お客さま係だけは窓口に近い島の中で動きます
- 課長や係長の役職者もフラットに扱い固定席を持ちません
- 本棚や一人席の裏側はすべてホワイトボードにしています
- Wi-Fi環境にすることで、パソコンの移動を容易にしました
- 一人席は個室となっており、集中業務に適しています
- ファイルサーバーの容量を増やし電子化を進めています
- 台形の机の組み合わせにより、簡単にレイアウト変更が行えます
- 会議室には大型モニターとホワイトボードを配置しました
- 机や壁を木目基調とし、みずみずしさのあるデザインにしました
- ダウンライトの採用により、すっきりした空間を創出しました
- 若手を中心としたフリーアドレス研究員を指名しています

お客さまカウンター



テーブル席



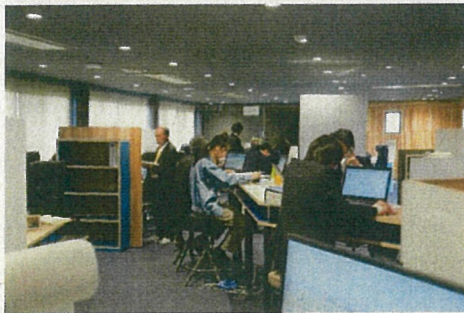
一人席（電話もなく設計向き）



ソファ席（新たな発想を生む）



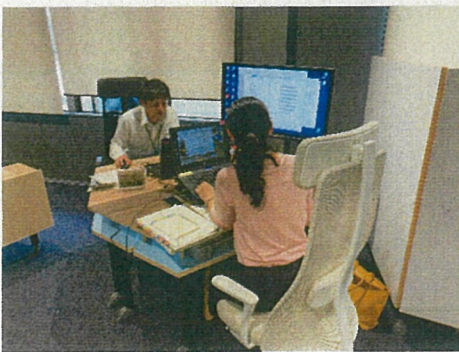
カウンター席（立ち話も可能）



会議室（モニターとホワイトボード）



ペア席（共同作業時に利用）



くじ引き



※一人席とペア席は、事前予約が可能です
※ペア席はアンケート実施後に誕生しました

個人用キャビネット(移動式)



自動ドア正面のPRボード



【市民の方の反応】

多くの市民の方が、「あの水道課がこんなに綺麗になるなんて」と驚かれます。他に、「雰囲気が変わったね」、「おしゃれすぎる」、「水族館みたい」、「宇宙船みたい」、「椅子が高そう」、「これはもう民間のオフィスですね」、「コーヒーが出てきそう」、「土足で入るのがもったいない」、「人数が増えたけど広々しているね」、「なぜ机が台形なの?」などの感想をいただいております。

また、営業で訪問される企業の方からも良い評価を受けており、社内会議で話題にあがることもあるそうです。これまでに、福岡県議会、福岡市副市長、愛知県豊川市議会、近隣自治体などから訪問をいただきました。他に、樋渡元武雄市長からフェイスブック上で注目いただきました。

玄関



台形のデザイン



【職員の声・アンケートの実施】

市の職員からは、斬新なデザイン・レイアウトとフリーアドレスデスクの採用について、特に若い職員からの評判は上々です。そして、市役所全体として、パソコンやプリンターなどの備品が増え、通路や協議スペースが減っていることから、どこでも話せる開放的な環境は高く支持されています。一方で、年配の方は、自分の縄張りがなくなることへの抵抗感が若干あるようですが、実際に勤務している職員の評価は以下の通りとなりました。

フリーアドレスデスクの導入から1ヶ月が経過した時点で、職員アンケートを実施しました。その結果は、6割以上の職員の満足度が上がるとともに、「コミュニケーションが盛んになった」や「色々な情報が入るようになった」、「毎日が新鮮だ」などの意見が多く見られました。今後も、定期的にアンケート(次回は7月末)を行いながら、日々改善を加えるとともに、九州産業大学とも連携して検証・研究を続けてまいります。(令和3年まで)

(アンケート結果の抜粋)

○フリーアドレスデスクを導入してみて…

満足23.1%、やや満足38.5%、やや不満11.5%

○課長・係長に相談しやすくなった 30.8%

○コミュニケーションが盛んになった 57.7%

○毎日の席替えて新鮮な気持ちになる 61.5%

○不要な資料を整理できた 42.3%

○職場に来るのが楽しくなった 15.4%

○いろいろな情報が入るようになった 38.5%

●収納スペースが不足している 80.8% (対応しました)

●内線番号の取次が大変 34.6% (対応しました)

●カウンター席(椅子)に不満がある 30.8% (対応しました)

●バッグやジャンパーなどの小物入れがほしい (対応しました)

小物入れと足置き



【事業費と導入までのスケジュール】

- 事業費は2,500万円
- 平成30年 4月 上・下水道の統合協議を継続
 - 平成30年10月 九州産業大学と官学連携業務委託を締結
 - 11月 学生による模型を使ったプレゼンを実施
- 平成31年 2月 改装工事に着手
- 平成31年 4月 上下水道庁舎オープン
- 令和元年(平成31年) 5月 導入から1ヶ月のアンケート調査を実施
- 令和元年(平成31年) 6月 個人キャビネット(移動式)の配備
- 令和元年(平成31年) 7月 導入から4ヶ月のアンケート調査を実施

【工事の主な内容】

- 机(手作り)や本棚、椅子など備品の入れ替え
- 大型モニター、設計用モニター、ホワイトボードの設置
- Wi-Fi環境の整備
- フローリング、壁紙の張替え
- 天井塗装とダウンライトの設置
- ロールカーテンの設置
- 自動ドアの設置
- 玄関アプローチの整備

【取組による効果】

- 組織や立場を越えたコミュニケーションの活性化を図ることができる
- 不定期勤務や休暇、研修の職員のデスクを省スペース化できる
- 固定化しない仲間との会話により、新しい発想が生まれる
- 色んな席の選択により、視線や姿勢、そして気分が新鮮になる
- 職員同士の情報共有が進み、縦割り行政を回避できる
- 市民の方々に開放感と清潔感のある印象を与えることができる
- 執務室内にまっすぐな動線を確保し、部屋の中央に共有プリンターやシュレッダーを設置したことで、偶発的な会話を発生させ、どこでもホワイトボードを使った協議も可能としました
- 周囲から注目される職場で働けることへの充実感や優越感は、仕事への満足感や責任感につながっている

点在するホワイトボード



【今後の計画について】

本市で初めてのフリーアドレスデスクの採用は、市のモデル事業と位置づけており、効果を見極めながら他部署への波及を視野に入れております。上下水道課としましては、PHS、係長決裁、テレワークなどハード・ソフトの両面から、新たなステップの働き方改革を進めてまいります。

【現在の課題や問題点について】

これまでのフリーアドレスデスクの失敗事例に見られる、「席が固定化する」、「距離が近くて集中できない」、「職員がどこにいるのか分からない」、「係ごとの意思疎通が希薄になる」などの弊害は現在のところ見受けられません。ただ、いっそうのICT化やテレワークを進めるに際し、どうしても全庁的に検討すべき課題もあり、改善スピードが鈍ってしまうことを懸念しています。

【結びに】

フリーアドレスデスクは2000年以前に流行した時と比べますと、パソコンの軽量化やWi-Fi技術を含めた通信・ネットワーク技術の進展、およびアプリケーションの向上などにより導入へのハードルは低くなり、働く人の役割や意識も多様化し、当時とは全く環境が違うものと認識しています。

上下水道課では、今後もハード・ソフトの両面から仕事の効率化や生産性の向上に努めてまいります。職員が気持ちよく働き自己実現できることを優先させながら、働き方改革のポイントのひとつである、仕事をする場所や環境にとらわれない、さらに楽しく働ける風通しのよい組織をめざしてまいります。

また、これから先の効果の検証の一つとして、業務の中で窮地に立った際に、どんな発想を生み出すことができるかが真価の間われる場面だと感じています。満足度の高い市職員だからこそ市民を喜ばせることができ、責任感を持った職員たちが、迫りくる給水人口の減少や老朽化の進むインフラに対する解決策を見つけてくれるものと信じています。

補足資料として、以下を添付しております。

- ① 報道記事
- ② 古賀市水の特命大使の資料
- ③ オープン当初のレイアウト図（※現在は若干変化しています）
- ④ 平成31年度古賀市の概要（別冊）

本日は、ご訪問いただきありがとうございました。

古賀市役所 上下水道課一同

◇ インスタボードあります ◇



新オフィス内は「自由席」

古賀市上下水道課 意思疎通活発に

4/11
西日本

西日本新聞（平成31年4月11日）



固定の自席がないフリーアドレスのオフィス。立った状態で使用できるカウンター席もある

立ち仕事カウンター、ソファも

組織統合で1日に充足した古賀市上下水道課は、全面改修された新しい事務所業務に当たっている。課長ら全職員29人が固定席をもたないフリーアドレス型のオフィス。自治体の事務所とは全くイメージが異なる「おしゃれなオフィス環境」は職場のコミュニケーションの活性化が目的で、職員たちの意気も上がっているようだ。

市は下水道事業の公営企業化に伴い、問い合わせ窓口の一元化や土木工事の相互連絡の緊密化を図るため、水道課と下水道課を統合する機構改革を実施。別々だった事務所を本庁舎に隣接する旧水道課の別棟にまとめた。

新しいオフィス（床面積約200平方メートル）には、市が産学連携協定を結ぶ九州産業大建築都市工学部の学生のアプローチも採用。来客用窓口と事務スペースに大きく分け、自由にレイアウトを変更できる台形のデスクを取り入れた。一般的な高さの机を組み合わせて一つのチームにまとまり、柔軟な発想で給水人口減の

置したほか、立ったまま仕事ができる105センチの机を並べたカウンター席、横に座った職場の仲間と話しながら新たな発想が生まれそうなソファ席。業務に集中できる1人席など、多様な席を用意した。

読売新聞（平成31年4月9日）



カウンター席で業務に当たる職員たち

業務に応じ座席選択

古賀市は今年度から発足の有効活用などを目的とした上下水道課に、職員が業務に応じて座席を選ぶ「フリーアドレスデスク方式」を導入した。

同課はこれまでの水道課と下水道課を統合し、29人が所属。日中は職員が多くが現場に出るため、フロア

課題を克服してほしい」とる。新組織発足で覚えること期待。ある職員は「課長とも多岐に、毎日の仕事で席が隣になればちょっと楽しくなりそう」と笑顔をたことでも聞きやすくな見せた。（上野洋光）

向上につなげたい」と話していた。

フリーアドレスデスク方式を取り入れた古賀市の上下水道課



業務に応じ自由な場所

古賀市は1日、新年度から組織を統合し誕生した上下水道課に、業務に応じて自由な場所で仕事をするフリーアドレスデスク方式を導入した。机や椅子などには木目を基調に水をイメージした色彩やデザインを取り入れ、お客様スペースも倍に広げた。水道課と下水道課は別々の職場

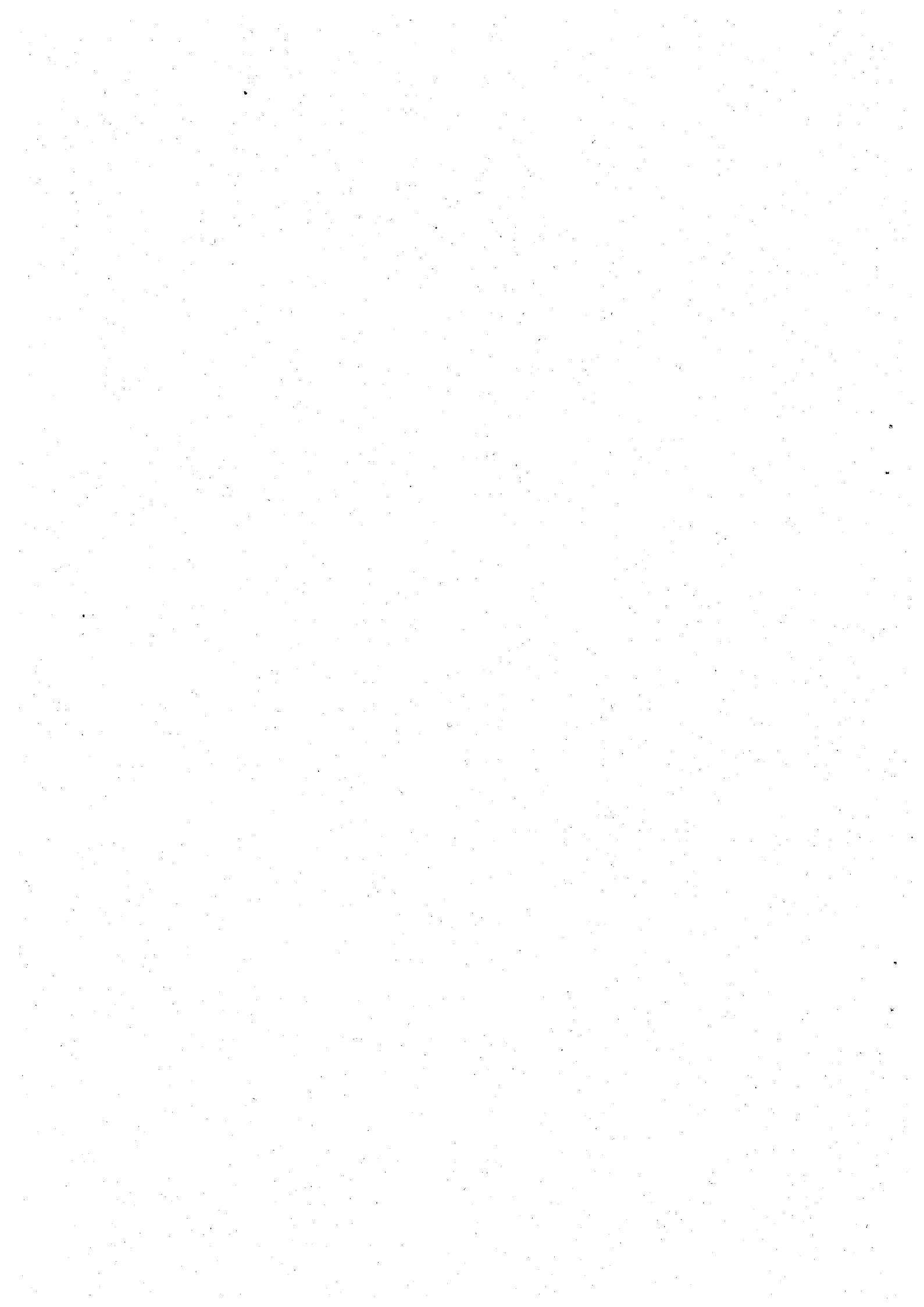
だったが、4月から公営企業化するのに伴い、料金窓口の一元化、土木工事の相互連絡、ライフラインの危機管理強化などを図るため統合した。

これに合わせ、共通業務の打ち合わせに適したグループ席、室内を歩く職員と気軽に会話ができるカウンター席、工事の設計などに集中する1人席、アイデアを練るソファ席などを配置した。内装の設計には九州産業大が協力し、学生の意見も取り入れた。

仕事を終わるとパソコンや書類は自分のロッカーに片付け、翌日の席をくじで決める。民間での導入は進んでいるが、自治体では先駆例という。

市は「毎日、席が変わることで、新たな発想やコミュニケーションの推進が期待できる。市民サービス向上につなげたい」としている。【前田敏郎】

毎日新聞（平成31年4月1日）



BB TOPICS

~JUNE~②

小野生奈が 古賀市「水の特命大使」 に!

ボートレーサー
として
「水の大切さ」を
訴える

福岡県古賀市では、この4月から「水の特命大使」を新設した。その大役に任命されたのは、我らが小野生奈（福岡）だ!

福岡県では近年にない渇水が続いており、「水」行政の情報発信を強化するとともに古賀市の魅力を全国的にPRしていくため、水の特命大使は新設された。その大使として白羽の矢が立ったのが、水の上で命を懸けて戦うボートレーサーで、古賀市と縁の深い小野生奈。小野も要請を受け、快く引き受けたという。4月5日にはその就任式が古賀市内で行なわれ、今後は8月1日の「水の日」に向けてポスターを作成し、全国に水の大切さをPRする活動を行なう。また、全国24レース場のある自治体との交流も進めていくという。就任にあたり、小野は以下のよう

にコメントしている。

「水は人間が生きていくうえで重要なものです。私はボートレーサーとして命をかけてレースに臨んでいます。今回、「水」のつながりで、このような大役を引き受けることになりました。古賀市で育ててもらった恩返しを機会をいただきましたので、古賀市の力になれることがあれば微力ではありますが、貢献していきたいと思えます。これからは、市民の皆さんや未来に向けて水の大切さを伝えていきます」

ボートレーサーがこのような立場を与えられるということは、業界にとっても素晴らしいことだ。小野の水陸両面での活躍をますます楽しみにしよう。

